

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/02/01

グローバル要因と共にローカル要因にも注目

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➡	一部で利下げ観測浮上 予想レンジ: 91.20 ~ 99.10 円	2-3
NZドル/円	➡	豪ドルよりも選好されやすい? 予想レンジ: 73.30 ~ 82.90 円	4-5
ランド/円	↘	社会不安というリスク 予想レンジ: 9.50 ~ 10.70 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



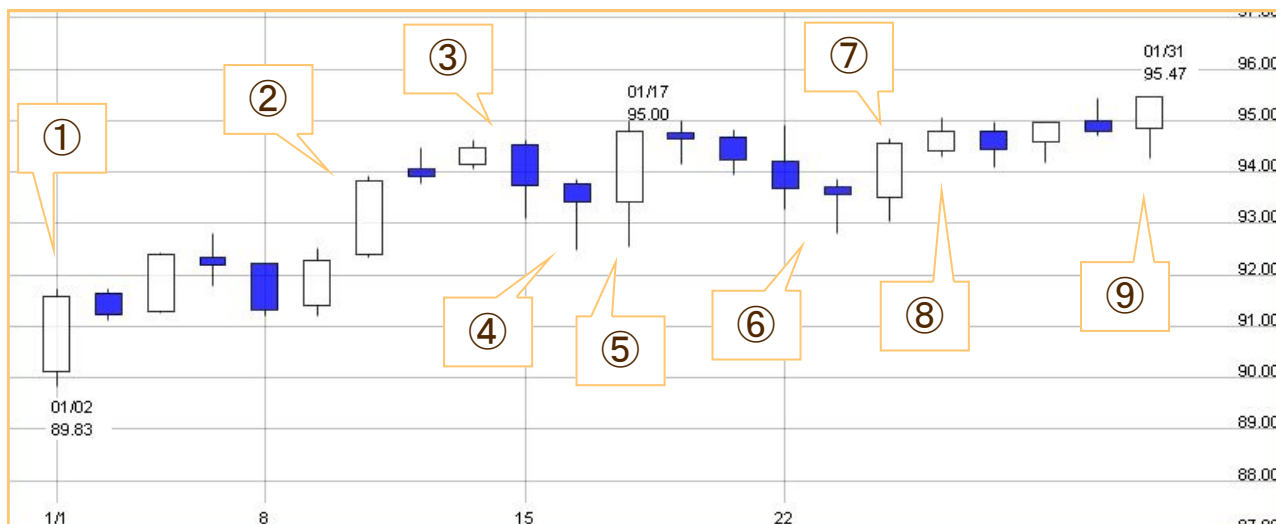
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD/JPY

豪ドル/円 1月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	90.13円	95.47円	89.83円	95.46円



- ① 2日、前日に米下院で「財政の崖」をひとまず回避する法案が通過し、NYダウ平均株価が引けにかけて上昇。これを好感して豪ドル/円は上昇した。
- ② 10日、日経新聞が「日銀は雇用拡大にも責任を」「円高是正、(政府、日銀が)ともに努力」等とする安倍首相のインタビュー記事を配信した事を受けてドル/円が急騰すると、豪ドル/円は一段と上昇。
- ③ 15日、甘利経済再生相の「過度な円安は輸入物価に跳ね返り、国民生活にマイナスの影響もある」との発言や、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメンのジム・オニール会長の「円は売られ過ぎている」との発言を受けて円を買い戻す動きが強まると、豪ドル/円は93.09円まで下落した。
- ④ 16日、日経平均株価の下げ幅拡大を背景に、豪ドル/円は軟調に推移。背景には自民党の石破幹事長が「(最近の円安について)産業によっては困る企業も出てくる」と発言した事もある模様。
- ⑤ 17日、豪12月失業率が5.4%、新規雇用者数は0.55万人減(予想:5.4%、0.40万人増)となり、豪ドル/円は30銭ほど下落。ただその後、米新規失業保険申請件数が33.5万件、米12月住宅着工件数は95.4万件と予想(36.9万件、89.0万件)より強い内容となり、ドル/円が上昇。更に「日銀が次回会合で無制限緩和を検討し、付与金利撤廃を検討」「物価目標2%目指し緩和を強化」と相次いで報じられ、円売りが優勢となった。これらを受けて豪ドル/円は95.00円まで値を上げた。
- ⑥ 23日、豪第4四半期消費者物価指数が前年比+2.2%、基調インフレ率は同+2.3%と予想(共に+2.4%)を下回った。スワン豪財務相の「国内のインフレはかなり抑制されており、RBAに利下げの余地を与える」との発言もあり、豪ドル/円は92.80円まで下落。ただ、米下院が債務上限の一時延長法案を可決し、これを好感してNYダウ平均株価が上昇すると、下げ幅を縮小した。
- ⑦ 24日、西村副大臣の「1ドル100円は問題ないとの認識は浜田宏一内閣官房参与と共通」との発言や、ジョージ・ソロス氏の「ユーロは上昇し、円は下落するだろう」との発言を受け、豪ドル/円は続伸した。
- ⑧ 25日、欧州中銀(ECB)が「3年物LTRO(長期資金供給オペ)で、30日の(民間金融機関による前倒し)返済額は1372億ユーロ」と発表。返済額が市場予想(500-1000億ユーロ)を上回り、欧州金融機関の資金繰り改善期待から株高となると、豪ドル/円は95.07円まで上昇した。
- ⑨ 31日、ドル/円の上昇に連れる形で、豪ドル/円は2008年8月以来となる95.47円の高値を記録した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

1月の豪ドル/円相場は89.83円～95.47円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約5.8%の上昇(豪ドル高・円安)となった。安倍新政権への期待からくる円安の進行に加え、米「財政の崖」をひとまず回避した事や、欧州の金融機関に対する資金繰り改善の思惑を背景とする「リスク・オン」の流れを受け、2008年8月以来の水準に上昇した。

2月の豪ドル/円相場は、米景気と円相場の動向が焦点となりそうだ。まず米景気について、足下では米景気回復期待を背景にNYダウ平均株価が史上最高値目前まで上昇している。一段と回復期待が高まれば、株高を背景にリスクを積極的に取る機運が高まり、豪ドル/円相場を押し上げると見る。

そして、先月の相場上昇をけん引した円相場の動向もまた、手掛かり材料となろう。先月、欧州を中心に円安誘導をけん制する発言が相次いだ事から、今回のG20財務省・中央銀行総裁会議は波乱含みとなりそうだ。G20前後の要人発言で円安批判が相次げば、円買い戻しが強まって2カ月以上ほぼ一本調子で上昇してきた豪ドル/円相場に調整局面が訪れる事も考えられる。

また、豪州での金融政策発表にも注目したい。市場関係者の間で豪州景気に慎重な見方が多い中、先月発表された豪第4四半期消費者物価指数が市場予想を下回ったことで、一部で利下げ観測が浮上。仮に利下げとなる場合、教科書的には売り材料となりそうだ。一方で金利を据え置いたとしても、足下で豪ドル高となっている現状では、声明文にて緩和的な政策を維持するとの文言を残すと見られる。これを受けた豪ドル買いの動きは一時的となるだろう。(川畑)

(予想レンジ:91.20～99.10円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

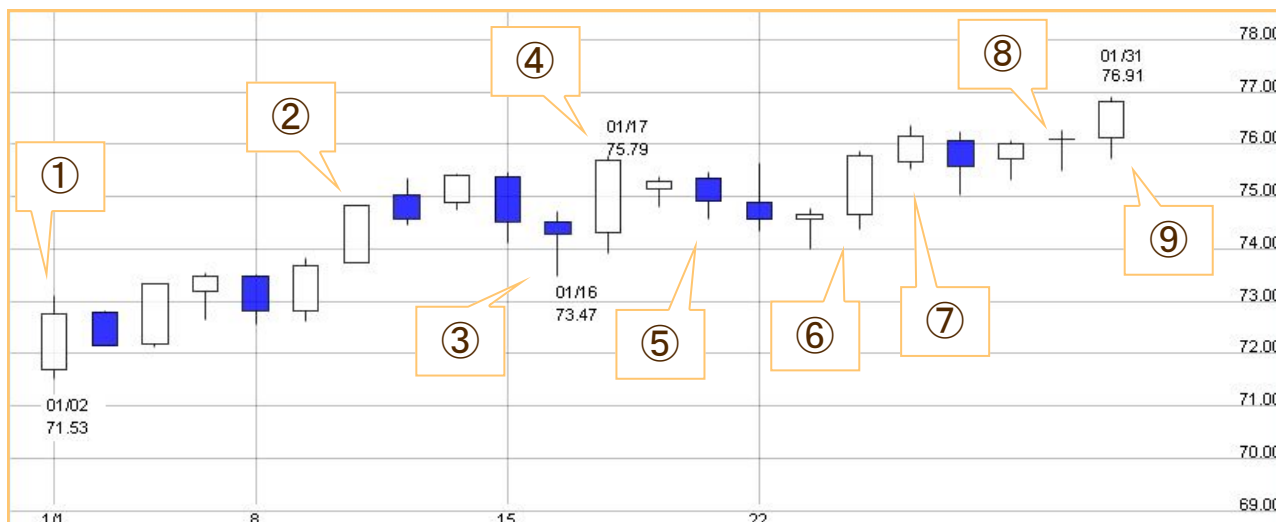
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
2/1(金)	1月中国製造業PMI	2/8(金)	1月中国貿易収支
	1月米雇用統計	2/13(水)	1月米小売売上高
	1月米ISM製造業景況指数	2/14(木)	日銀金融政策決定会合(13日～発表)
2/4(月)	12月豪住宅建設許可件数		第4四半期ユーロ圏GDP・速報値
2/5(火)	12月豪貿易収支	2/15(金)	2月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	第4四半期豪住宅価格指数		G20財務省・中央銀行総裁会議(～16日)
	RBAキャシュターゲット	2/19(火)	RBA議事録
	1月米ISM非製造業景況指数	2/20(水)	1月日通関ベース貿易収支
2/6(水)	12月豪小売売上高		FOMC議事録
2/7(木)	1月豪雇用統計	2/21(木)	2月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
	欧州中銀金融政策発表	2/24(日)	イタリア総選挙(～25日)
2/8(金)	12月日貿易収支	2/28(木)	第4四半期米GDP・改定値
	1月中国消費者物価指数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

NZドル/円 1月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	71.69円	76.91円	71.53円	76.82円



- ① 2日、前日に米下院で「財政の崖」をひとまず回避する法案が通過し、NYダウ平均株価が引けにかけて上昇。これを好感してNZドル/円は上昇した。
- ② 10日、日経新聞が「日銀は雇用拡大にも責任を」「円高是正、(政府、日銀が)ともに努力」等とする安倍首相のインタビュー記事を配信した事を受けたドル/円の急騰に連れて、NZドル/円は値を上げた。
- ③ 16日、日経平均株価の下げ幅拡大を背景に、NZドル/円は軟調に推移。背景には自民党の石破幹事長が「(最近の円安について)産業によっては困る企業も出てくる」と発言した事もある模様。
- ④ 17日、米新規失業保険申請件数が33.5万件、米12月住宅着工件数は95.4万件と予想(36.9万件、89.0万件)より強い内容となり、ドル/円が上昇。更に「日銀が次回会合で無制限緩和を検討し、付与金利撤廃を検討」「物価目標2%目指し緩和を強化」と相次いで報じられ、円売りが優勢となった。これを受けてNZドル/円は75.79円まで上昇した。
- ⑤ 18日、NZ第4四半期消費者物価指数は前期比-0.2%、前年比+0.9%(予想:+0.1%、+1.2%)となり、NZ準備銀行(RBNZ)のインフレ目標(年1~3%)を下回った。市場では当面の間RBNZが政策金利を据え置くとの見方が広がり、NZドル/円は前日終値から60銭超下げて寄り付いた。
- ⑥ 24日、西村副大臣の「1ドル100円は問題ないとの認識は浜田宏一内閣官房参与と共通」との発言や、ジョージ・ソロス氏の「ユーロは上昇し、円は下落するだろう」との発言を受けて円売りが優勢となると、NZドル/円は上昇した。
- ⑦ 25日、欧州中銀(ECB)が「3年物LTRO(長期資金供給オペ)で、30日の(民間金融機関による前倒し)返済額は1372億ユーロ」と発表した。返済額が市場予想(500-1000億ユーロ)を上回り、欧州金融機関の資金繰り改善期待から株価が上昇すると、NZドル/円は76.35円まで値を上げた。
- ⑧ 30日、米第4四半期国内総生産(GDP)が前期比年率-0.1%(予想:+1.1%)となった事を嫌気したドル/円の下げに連れて、NZドル/円は75.49円まで下落。その後、RBNZは市場の予想通り、政策金利の2.50%据え置きを発表。ただ、ウィーラー総裁が声明で、住宅価格の上昇に警戒感を示し、国内の経済成長は今年強まっていくとの見通しを示すと、NZドル/円は下げ幅を縮小した。
- ⑨ 31日、ドル/円の上昇に連れられる形で、NZドル/円は2008年8月以来となる76.91円の高値を記録した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今月のポイント

1月のNZドル/円相場は71.53円～76.91円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約6.9%の上昇(NZドル高・円安)と豪ドル/円(約5.8%)の上昇率を上回った。安倍新政権への期待からくる円安の進行に加え、米「財政の崖」をひとまず回避した事や、欧州の金融機関に対する資金繰り改善の思惑を背景とする「リスク・オン」の流れを受け、NZドル/円は2008年8月以来の高値を記録した。背景には、市場で(今年後半から来年前半にかけて)利上げが期待されているNZドルと、一部で利下げ観測が浮上している豪ドルとの、金利差拡大観測がありそうだ。

2月のNZドル相場は、先月の「リスク・オン」の流れが続くか注目したい。安倍新政権への期待からくる円安に加え、米国や中国経済の回復期待、ユーロ債務危機の一服などが材料視されれば、NZドル/円は買いが先行する展開となりそうだ。ただし、G20財務省・中央銀行総裁会議での円安批判が相次ぐようだと、円売りの勢いが鈍る可能性がある。米中の景気回復期待が後退する場合なども、2カ月以上にわたりほぼ一本調子で上昇してきたNZドル/円相場が調整局面に入るきっかけとなる事も考えられる。米中の経済指標や、主要国の要人による円安批判発言には注意したい。

一方、NZ国内では、クライストチャート地区の震災復興需要が期待される中、先月末の金融政策発表の際の声明や、今月1日の講演にてウィーラー総裁はNZの住宅価格の上昇に警戒感を示したことから、今後は住宅建設許可など住宅関連の経済指標の注目度が高まろう。その他、第4四半期の失業率や小売売上高、に注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 73.30～82.90円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

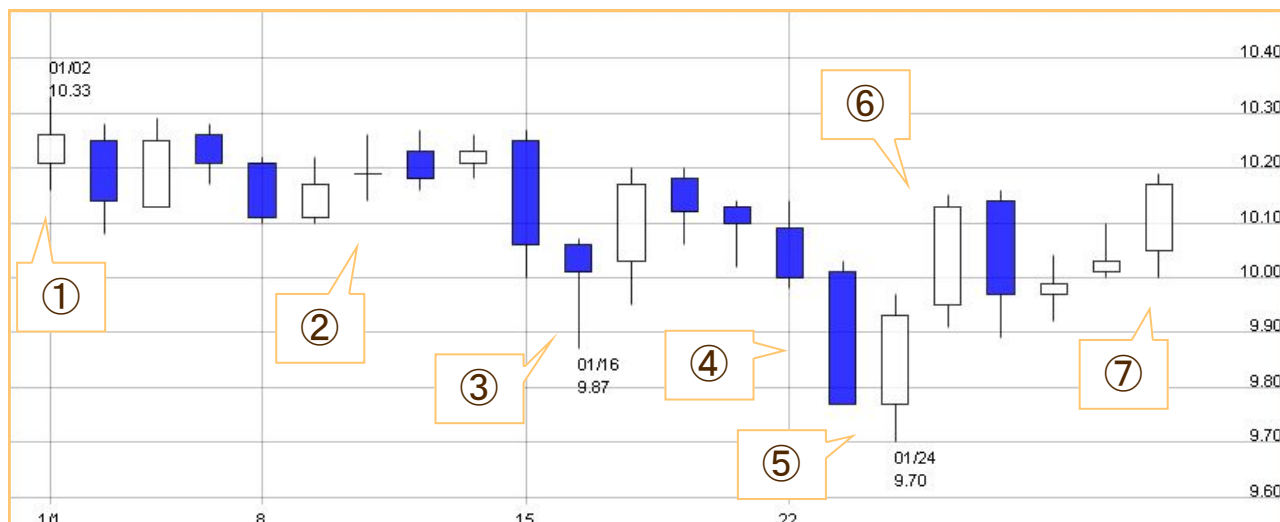
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
2/1(金)	1月中国製造業PMI	2/14(木)	第4四半期ユーロ圏GDP・速報値
	1月米雇用統計		第4四半期NZ小売売上高指数
	1月米ISM製造業景況指数	2/15(金)	2月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
2/5(火)	1月米ISM非製造業景況指数		G20財務省・中央銀行総裁会議(～16日)
2/6(水)	12月豪小売売上高	2/19(火)	第4四半期NZ生産者物価
	第4四半期NZ失業率	2/20(水)	1月日通関ベース貿易収支
2/7(木)	欧州中銀金融政策発表		FOMC議事録
2/8(金)	12月日貿易収支	2/21(木)	2月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
	1月中国消費者物価指数	2/24(日)	イタリア総選挙(～25日)
	1月中国貿易収支	2/26(火)	1月NZ貿易収支
2/13(水)	1月米小売売上高	2/27(水)	1月NZ住宅建設許可
2/14(木)	日銀金融政策決定会合(13日～発表)	2/28(木)	第4四半期米GDP・改定値

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 1月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	10.21円	10.33円	9.70円	10.17円



- ① 2日、米共和党のコール下院議員の発言などから法案可決に楽観的な見方が広がり、リスクを積極的に取る機運が高まると、ランド/円は2012年5月以来となる10.33円まで上昇した。
- ② 10日、格付け会社フィッチが南アの格付けを従来の「BBBプラス」から「BBB」に、一段階の引き下げを発表。これを嫌気してランド/円は一時10.14円まで下落した。
- ③ 16日、日経平均株価の下げ幅拡大を背景に、ランド/円は軟調に推移。背景には自民党の石破幹事長が「(最近の円安について)産業によっては困る企業も出てくる」と発言した事もある模様。ただその後、南ア11月実質小売売上が前年比+3.4%と予想(+1.5%)を上回ると、下げ幅を縮小した。
- ④ 23日、前日に発生したサソルバーグでの暴動や、国際通貨基金(IMF)が2013年の南アの経済成長率予想を従来の3.0%から2.8%に引き下げた事が嫌気され、ランド/円は売り優勢となった。なお、12月南ア消費者物価指数は前年比+5.7%と事前予想と一致したが、市場の反応は薄かった。
- ⑤ 24日、日経平均株価の安寄り付きを嫌気してドル/円が急落すると、連れてランド/円は9.70円まで急落。ただその後、西村副大臣の「1ドル100円は問題ないとの認識は浜田宏一内閣官房参与と共通」との発言や、著名投資家のジョージ・ソロス氏の「ユーロは上昇し、円は下落するだろう」との発言を受け、ランド/円は引け間際に9.97円まで上昇した。なお南ア準備銀行(SARB)は政策金利の5.00%据え置きを発表し、2013年の同国の経済成長率(GDP)見通しを、前回11月の2.9%から2.6%へと引き下げた。一方でマーカス総裁は声明で「金利の引き下げは協議しなかった」「据え置きの決定は全会一致」など発言すると共に、景気が減速している中で食糧価格の上昇やランド安に懸念を示したが、いずれも市場の反応は薄かった。
- ⑥ 25日、欧州中銀(ECB)が「3年物LTRO(長期資金供給オペ)で、30日の(民間金融機関による前倒し)返済額は1372億ユーロ」と発表した。返済額が市場予想(500-1000億ユーロ)を上回り、欧州金融機関の資金繰り改善期待から株価が上昇すると、ランド/円は10.15円まで上昇した。
- ⑦ 31日、ドル/円の上昇を背景にランド/円は堅調に推移。なお南ア12月貿易収支は27億ランドの赤字(予想:24億ランドの赤字)となったが、市場の反応は薄かった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

1月のランド/円相場は9.70円～10.33円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.5%の下落(ランド安・円高)となった。米「財政の崖」をひとまず回避した事を好感して約8か月ぶり高値を付けるも、その後は安倍新政権への期待からくる円安の進行や、欧州の金融機関に対する資金繰り改善の思惑を背景とする「リスク・オン」の流れに対する反応はいま一つ。それ以上に、同国で発生したストによる社会不安を背景に軟調に推移した。

2月のランド/円相場は、南ア国内の社会不安が沈静化するかがカギとなりそうだ。ストや暴動の発生により社会不安が一段と増大し、国内の生産低下が貿易収支の赤字拡大に結び付くようだと、格付け会社による再格下げが懸念され、ランド売り圧力が強まる可能性がある。仮に社会不安が沈静化したとしても、国内産業が持ち直すまでには時間がかかるため、株高などを理由に「リスク・オン」でランドが買われたとしても、上昇の勢いは他の資源国通貨よりも劣るだろう。(川畑)

(予想レンジ:9.50～10.70円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
2/1(金)	1月中国製造業PMI	2/14(木)	第4四半期ユーロ圏GDP・速報値
	1月米雇用統計	2/15(金)	2月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	1月米ISM製造業景況指数		G20財務省・中央銀行総裁会議(～16日)
2/5(火)	第4四半期南ア失業率	2/20(水)	1月日通関ベース貿易収支
	1月米ISM非製造業景況指数		1月南ア消費者物価指数
2/7(木)	欧州中銀金融政策発表		FOMC議事録
2/8(金)	12月日貿易収支	2/21(木)	2月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
	1月中国消費者物価指数	2/24(日)	イタリア総選挙(～25日)
	1月中国貿易収支	2/27(水)	第4四半期南アGDP
2/13(水)	12月南ア実質小売売上高	2/28(木)	1月南ア生産者物価指数
	1月米小売売上高		1月南ア貿易収支
2/14(木)	日銀金融政策決定会合(13日～発表)		第4四半期米GDP・改定値

巻頭の特記事項を必ずお読みください。